

# 敷島小学校 学校関係者評価書

令和3年 2月15日(月)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

## 第1回 学校関係者評価委員会

実施日：感染症対策として、紙面にて御意見を頂きました。(回収日：R3, 2, 12)  
御意見を頂いた皆様

(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之様、松土 仁郎様、清水 學様、平賀 文子様、小林 梓様

P T A代表：PTA 会長 藤本 毅裕様、PTA 副会長 堀込 晋也様、同 栗林 千明様、  
同 天野 玲香様、同 浦川 正治様

## I 学校側から提案された内容

学校側から、12月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析した「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

- (1) 学校教育目標及び学校経営方針について
- (2) 自己評価について
  - ① 全体評価
  - ② 項目ごとの評価結果について(達成状況・改善策)
    - (ア) 学校教育目標・学校経営について
    - (イ) 学校運営について
    - (ウ) 学習指導について
    - (エ) 生徒指導について
    - (オ) 地域との連携について
    - (カ) 学校の特色に関して
- (3) まとめ

## II いただいた主な御意見

学校が取りまとめた自己評価書をもとに、本校の教育活動や学校運営の状況について、紙面にて意見を提出していただいた。提出した意見をまとめることで、学校関係者評価とした。「感想や成果」、「今後の課題」「お願い」の3観点でまとめさせていただいた。

### <学校関係者評価書>

#### 「感想や成果」

- ・授業参観や学校開放日もなく、様子を伺うことができなかったが、学校は楽しいところと捉えている児童が多いことに安堵している。ホームページの活用により、保護者との連携が得られていてよい。
- ・児童のアンケートは大変肯定的な回答が多く、学習活動や学校生活が良好であると思われる。
- ・教職員の自己評価で、ホームページの活用が上昇したのは、教職員間は勿論、保護者や地域との情報交換が行えたことがよかったのではないか。
- ・「報告、連絡、相談がなされている」が、特に保護者に評価されたことは、学校だけでなく、HP等、学校からの情報伝達がうまく機能しているからである。更に家庭との連携をはかって欲しい。
- ・今年度は、新型コロナウイルス感染対策により、学校全体が特別な年度になったと思われる。その中で先生方が校長先生の下、一丸となって日々努力された結果が評価に

表れていると思う。具体的には、コロナ禍の制約された学校生活の中でも「学校の楽しさ」を問う設問に、児童、保護者共に高評価だったことや、「相談する先生がいるか」について、児童、保護者の「とてもそう思う」の数値が高かったことなどが挙げられます。

- ・ 顕著に数値が上昇した例として挙げられている「ホームページの活用」について、コロナ対策で休校になった時にはとても役に立つ情報源だったと思う。私自身も時々HPを拝見しているが、高い頻度で更新されていて児童の学校での様子がよく分かる。
- ・ HP や学校からのたよりがよい情報源になった。活動の様子を知ることができ、安心感につながった。
- ・ 子どもが「学校は楽しい」、「困ったことはない」と楽しそうに話して安心できる。先生は、子どもに何かある時は、誠実に対応している。
- ・ 教職員による自己評価では、前年を上回る肯定的な回答がみられた。
- ・ 学校経営や学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色は、各調査結果やアンケート等から、良好な水準にある。
- ・ 学校長を中心に、チーム学校として外部機関とも連携し、教職員の専門性を生かした教育効果を発揮した学校運営がされている。
- ・ 学級担任はじめ、全職員が学校経営方針に基づいた情報交換を重視した実践が行われている。
- ・ 学校運営について、保護者のアンケートも含めて肯定的な回答が多いことが大きな成果である。特に、「施設、設備の定期的な点検」は職員をはじめ、子ども達の学校生活にとっても重要である。
- ・ 学習指導や生徒指導は理解、納得できることが多く、とても好意的に感じる。
- ・ コロナ禍で大変な中、校長先生をはじめ担任の先生方が子どもたち一人一人に対して熱心に向き合ってくださり感謝している。
- ・ 全校をあげてのあいさつ運動として、児童会や PTA 活動で取り組んでいることはよい。
- ・ コロナに翻弄された一年だった。先生方は、子どもへの対応や保護者への対応に苦慮されたことと思う。先生方の御苦勞は本当に大変だったと思う。感謝の気持ちでいっぱいである。
- ・ 感染対策を行いながら、いろいろな行事の変更や中止を考慮し、様々な工夫をされてきた。その中でも修学旅行を熟慮し、今できる範囲で実施できたことはよかった。子どもが充分満足していた。
- ・ 日頃より諸先生方には子どもたちが安心・安全に過ごせる環境づくりをしていただき感謝している。近年、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化し、学校教育が全体的に大変な中、敷島小学校は大変よい方向に進んでいると思う。先生方が一生懸命に取り組んでいる姿が、いろいろな場面で見られてとても素晴らしい。また、教育に対する教員の取組が、非常によい。子どもたちに自信をもたせるために教員が工夫して、子どもに自発的な姿勢や自己肯定感が感じられる。今後も継続して欲しい。

### 「今後の課題」

- ・ 地域において、児童のあいさつはまだ自主的に行っているとは言えない。学校と地域の両方で指導したい。
- ・ 児童の登下校の見守りや行事への参加をとおして、子どもたちとふれあう機会が多くなれば、課題となっている「あいさつ」も自然とできるようになると思う。地域を巻き込んで良き大人の目で見守っていききたい。
- ・ 地域の大人も積極的にあいさつをしようと思う。
- ・ 「あいさつ」については、家庭でも指導が必要だと思う。
- ・ 英語の学力向上について取り組む必要を感じる。(日々の生活の中で英語の楽しさを感じさせたい。)

- ・「職場の福利厚生」について、少ない時間を工夫して解決する（改善点をできるだけ具体的に挙げる）必要がある。健康な先生方があっての学校だと思う。
- ・保護者の回答の中で、多くが肯定的な意見だったが、少数であっても否定的な回答があった原因を探っていくことが重要である。
- ・「学校は楽しいか」の項目については、少数の否定的な回答に耳を傾ける必要がある。（その子に合った方法を見つけるなどして）
- ・コロナは勿論、今後の災害時における学校・家庭での役割を考える必要がある。
- ・コロナで授業ができなかったことが影響して、授業の理解度に差が出ているのではないか。

### 「お願い」

- ・コロナのための長期休業の影響で、学校生活に慣れない児童もいたと思う。そのような児童に対し、継続してきめ細やかな指導をお願いしたい。
- ・コロナ予防に割かれる時間が多く、気苦労、気配りのあまり児童と教師、また教師間のコミュニケーションの時間が減少し、一人一人が孤立しないようお願いしたい。
- ・コロナ禍であったからこそできた改革があった。収束後も検討し、取り組むことも大切である。
- ・子ども達の学校生活での交流も充分にはできない部分もあるが、個を大切にしたい指導も大切にしたい。
- ・家庭学習については、より具体的に示して欲しい。（自主学習について、取組方について、具体的に示して欲しい。）
- ・今後も一人一人に寄り添い、微妙な変化を見落とすことなく、日々子どもたちに接して欲しい。

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切 道之